



他者を大切にする①

ある会社の入社試験の話です。

受付をしていた女性がいました。試験を受けに来た人は、その受付の女性には、ほとんど注意を払いません。実は、その女性は、社長秘書の秘書室長だったのです。受付をしながら、書類をきちんと両手で出しているか、書類を受け取るときに丁寧に両手で受け取っているか、きちんと頭を下げているかなどを観察して、社長に報告していたのです。



「他者を大切にする」人は、相手がどんな立場の人であろうと、同じように接します。しかし、利害関係によって対応を変えるような人は、受付の人には、会釈をしなかったり、渡してくれる書類を片手で素っ気なく受け取ったりするかもしれません。“タメ口”で話しかけたり、ミスがあればクレームを言ったりするかもしれません。

この社長は、立場や相手によって対応を変えるような人は社員にはいらないと考え、受付にこの女性をワザとにおいて、入社試験には関係ないと思われる人への接し方を報告させたのです。きっとこの社長は、そういうことにキビシイ人で、社長自身は部下であっても、年下であっても、丁寧に対応する人なのだと思います。

本校の学校教育目標は、「自分を大切にし、他者を大切にする」子どもの育成です。また、小笠原流礼法の授業においても、「相手を思いやり、相手を敬う心」を学んでいます。たとえ相手が、会社の社長であっても、受付の方でも、掃除をしている人でも、車いすで生活している人でも、お年寄りでも、「他者を大切にすること」には変わりはありません。どれだけ立派な人でも、店員などのサービス業の人に横柄な態度をとる人は、他者を大切にする心に欠けた人だと思います。

明らかに間違っていますが、子どもたちの中には、テストの点数の違い、運動能力の違い、体型の違い、心の発達の違い、性格の違いなどなどの違いで、相手をバカにしてしまったり、なめてしまったりという場合があります。これらはいじめや差別にあたる誤った行動ですので、もちろん指導していきます。

さらに、大人の中には、打算的に自分にメリットがある・なしによって、接し方を変える人がいます。こういう人は「自分は大切にされるけれど、他者は“場合（相手）によって”大切にしたり大切にしなかったりする」人です。中には、立場によって「相手を見下す」人もいます。そういう人はその立場がなくなれば、相手にされなくなります。こういう人が上司だと働きにくい職場になるのでしょうか。



…私自身、校長として、「偉くなったつもりにならない」とよく言い聞かせています。

本校が教育目標に掲げているのはそういう人ではありません。「自分を大切にし、それと同じように、または、それ以上に、他者を大切にする」人です。こういう人は、自然に、誰にでも同じように接します。

あるレストランでのエピソード

接客を10年も担当してくれていた優秀な女性スタッフがその店を辞めることになった。店長は一生懸命に仕事をしてくれた彼女に何かお礼がしたかった。

いよいよ彼女の最後の出勤の日がきた。
出勤してきた彼女に店長は、まず、トイレ掃除を命じた。
もちろん素直な彼女は一生懸命トイレをきれいにした。

彼女がトイレを掃除している間、密かに店長は店内にいるお客様の間をまわりはじめた。
「10年も勤めてくれたスタッフの〇〇が、今日で辞めることになりました。」

一本のバラをお客様に渡しながら

「これから、彼女がお客様の間をまわりますから、どうかこの花を彼女に渡してもらえませんか？」
店内にいる30人近くのお客様が全て協力してくれた。

トイレ掃除を終えた彼女に、店長は次の指示を出した。

「すべての客席をまわってお客様に感謝の気持ちを込めてご挨拶してください。」

彼女は客席をまわった。

最後のお客様をまわり終わったとき、
彼女の手には30本の大きなバラの花束ができていた。
そして、彼女の目には大粒の涙があった。



帰り際にお客様から、店長に

「何でこの店が人気があるのかわかりました。素晴らしいスタッフたちですね。」
とお褒めの言葉があった。

このことをその女性スタッフは一生忘れないだろうし、お客様も忘れないだろう。

(平野秀典「ハッピーエンドのつくりかた」より)

日によって勤務状況が異なりますが、本校に勤務する教職員は、39人います。
コロナ禍なので、ひざを突き合わせて、ゆっくり一杯とはいきませんが、
本校全ての教職員が働きやすい職場にしたいと常に思っています。
教職員が働いていて楽しい学校は、子どもも楽しい学校です。

